

第17回国際社会学会（VII X ISA World Congress of Sociology）に参加して

北村尚浩*

はじめに

国際スポーツ社会学会は、スポーツ社会学分野の国際協力を推進するとともに研究者間の交流を促進することを目的とした国際組織である。学会ホームページによれば、その歴史は1964年にスイスのジュネーブで開催された International Committee for the Sociology of Sport (ICSS) までさかのぼる。1966年には西ドイツ（当時）のケルンで第1回国際シンポジウムを開催し、以降、オリンピック科学会議（Olympic Scientific Congress）や国際社会学会（World Congress of Sociology）などと共催しながら、ほぼ毎年学会大会を開催してきた。2010年は4年に1度開催される国際社会学会（International Sociological Association: ISA）の共催学会、第17回国際社会学会として2010年7月12日から16日にかけて、スウェーデン・ゴッテンプルグ市で開催された。この国際社会学会は社会学に関連する領域の国際学会が一堂に集結して開催されるもので、今回は国際スポーツ社会学会をはじめ55の関連学会が、Research Committee としてゴッテンプルグ市内7つの会場で分散して開催された。参加者数は103の国と地域から5,000名余りにのぼった。筆者は、Research Committee 27-Sociology of Sport に参加する機会を得たので、その概要をレポートする。

RC. 27. Sociology of Sport

国際スポーツ社会学会が主管する Research

Committee27, Sociology of Sport は、中央駅からトラム（路面電車）でおよそ15分、University of Gothenburg の Linné キャンパスを会場として開催された。

セッションのテーマは、スポーツ社会学研究の現状からスポーツと健康との関連、スポーツ政策、ナショナリズム、スポーツイベントと多様に設定されていた。今回、本学からは筆者の他、生涯スポーツ実践センターの川西、大学院博士後期課程の方、武岡、修士課程（東京サテライトキャンパス）のゼッターランド、プロジェクト研究員の成田の計6名が参加した。全員、発表申し込みを行ったが、オーラル発表としてアクセプトされたのは川西のみで、あとは Distributed Paper として誌上発表という形になった。55の国際学会が一堂に会しており、スポーツ社会学に割り当てられた会場は1教室のみであったのに対し演題数は97に上っ

表1 セッションテーマと演題数

Session	演題数	Distributed Paper
Sociology of Sport on the Move	6	7
Inclusion/Exclusion in Sport	13	4
Sport, Bodies and Identity Politics	10	2
Sport, Health and Risk I	8	2
Sport, Politics and Policy I	8	1
Media and Sport	5	2
Sport and National Identity	8	9
Open Papers in Sociology of Sport I	15	2
Sport, Spectacle and Mega Events	6	2
Sport, Politics and Policy II	5	0
Open Papers in Sociology of Sport II	5	0
Sport, Health and Risk, SHR II	8	2
計	97	33

*鹿屋体育大学スポーツ人文・応用社会科学系

ており、限られたスペースと時間の中でおおよそ3分の1にあたる33演題が Distributed Paper とされた。

川西は Sport, politics and policy II のセッションで “The Social Impacts and Evaluation of the Promotion Policy as Practical Projects to Improve Child Physical Fitness by MEXT” のテーマで口頭発表を行った。また、方は Open Papers in Sociology of Sport I のセッションで “Social Significance of the New Style Sport in School Physical Education in Korea”, 武岡と成田は Sport, Health and Risk II のセッションで、それぞれ “The Social Factors determined to the QOL of Elderly as Home Exercise Practitioner”, “The comparison of children’s daily activity; elementary school in Japan and Germany” のテーマで誌上発表となった。



口頭発表の様子

筆者は、オープンペーパーのセッションで、The globalization and essentials of Japanese martial arts, Budo の演題で誌上発表を行った。本発表は、武道参加者の達成目標について、日本とカナダの武道参加者に対する質問紙調査の結果から、2国間の比較を行うことを目的とした。

因子分析によって得られた達成目標因子（自我志向因子と課題志向因子）について、日本人参加者とカナダ人参加者のそれぞれの因子得点の平均値を算出し、t検定による比較を行った。その結果、自我志向因子では日本人参加者が0.24の得点を示したのに対して、カナダ人参加者の得点は-0.89

であった ($p < 0.05$)。一方、課題志向因子では、日本人参加者が0.12であったのに対して、カナダ人参加者は0.60であった ($p < 0.05$)。これらの結果から、日本人参加者はカナダ人参加者に比べて、自我志向が強く課題志向が弱いことが明らかになった。このことはすなわち、日本人の武道参加者は相手に勝つことや自分の技能を誇示するといった志向がカナダ人参加者よりも強く、カナダ人の武道参加者は自己の目標や課題を達成していこうとする志向が日本人参加者よりも強いことを示しており、日本の武道教育の在り方に一石を投じるものである。

Distributed Paper としての発表者に対しては残念ながら登壇の機会とは与えられない。しかしながら、Abstract や資料を会場内で配布することができるようにするなど、一定の配慮は見られた。また、修士課程（東京サテライトキャンパス）1年のゼッターランドは、Distributed Paper としての発表であったが、Media and sport のセッションの合間にショートスピーチの機会を与えられ、“How media training effect to the athlete’s behavior and performance” のテーマでの研究の概要を報告し、セッション終了後には海外の研究者から多くの助言を得ることができたようである。



ショートスピーチを行うゼッターランド

Sociology of sport の合間に、Sociology of leisure の会場へも足を運んだ。関連する他領域の発表を聞くことができるのも、ジョイント学会のメリットである。Leisure and Tourism: Harbinger of Peace

and Conflict Resolution のセッションは、Sociology of leisure と Armed forces and conflict resolution のジョイントセッションとなっており、特に、途上国における平和な社会の発展のためにツーリズムに対する期待の大きさが感じられるセッションであった。ナイジェリアの平和と発展へのパスポートとしてツーリズムへの期待は大きいは大きいものの、国に対するネガティブなイメージをいかに克服するかが課題とする発表が印象に残った。また、中国における文化大革命ゆかりの地域を、観光資源として再開発するRed tourism (Red tourism in China) に関する発表も、興味深いものであった。しかしながら、ジョイントセッションにもかかわらず聴衆が50名にも満たず、途上国に対する関心の低さが露呈されたセッションであった。

おわりに

今回の国際スポーツ社会学会は、国際社会学会大会のひとつのプログラムとして開催されたため、発表に用いる教室の数や時間に制限があり、スポーツ社会学の領域に関する発表の機会は必ずしも十分であったとは言い難い。しかしながら、世界各国から研究者が一堂に会する機会として、その役割は十分に果たされていたように感じる。筆者も、毎年参加しているヨーロッパスポーツ社会学会のメンバーたちと再会することができ、有意義な学会参加とすることができた。一緒に参加した大学院生にとっても、残念ながら口頭発表の機会は与えられなかったものの、海外の大学院生との交流などはおそらくいい経験になっただろう。

最後に、本学会大会への参加、発表にご理解とご支援をいただいたことに感謝の意を表したい。